

2024年度 ゼミナールレポート抄録集

浜松学院大学 短期大学部 幼児教育科 山本ゼミナール

学籍番号	氏名	テーマ	ページ
2023E021	榎谷 百花	学校紹介について	1
2023E028	小原 侑奈	動画編集	3
2023E032	金子 陽花	学校紹介動画の制作	5
2023E044	小出 優来	学校紹介の動画制作について	7
2023E056	菅沼 千瑠	浜松学院大学短期大学部紹介ビデオの制作について	9
2023E057	菅沼 優唯	大学紹介の動画作成について	11
2023E065	鈴木 莉央	「浜松学院大学短期大学部紹介ビデオ」の制作について	14
2023E073	田中 夏綸	「浜松学院大学短期大学部紹介ビデオ」の制作について	16
2023E078	手塚 梨々子	浜松学院大学短期大学部紹介動画の制作について	18
2023E079	富田 彩音	学校紹介の動画制作について	20
2023E080	内藤 さやか	動画制作について	22
2023E088	名倉 世莉	はまたん紹介動画制作	24
2023E095	俵山 亜純	はまたん紹介動画	26
2022E078	戸塚 夢菜	動画制作について	28

日時：2025年1月24日(金) 13:00～

場所：S1301教室

学校紹介について

2023E02I 榎谷百花

1. はじめに

山本ゼミへの参加理由は、パソコン操作が苦手で、これからの保育士に必要なスキルを習得したいと考えたからである。ゼミでは、タイピング速度の向上や正しい指の位置の習得を目標にし、ブログの作成・更新、生成 AI を活用した絵本制作、卒業レポートの作成、子どもフェスティバルの準備など幅広い活動に取り組みました。こうした活動を通じて、学生時代に必要な基礎知識を身につけることを目指した。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

卒業制作として、浜松学院大学短期大学部の魅力を伝える 3 分間の紹介動画を制作した。大学の行事や施設、時間割、ゼミ活動などを振り返りながら、大学全体を見直す良い機会にもなった。

2-2. 利用したツール

制作には「Instagram」「Pinterest」「CapCut」を利用した。「Pinterest」で背景画像を探し、「Instagram」で文字入れや編集を行い、「CapCut」を使って動画のカットや BGM 選び、文字サイズの調整などを行った。これらのツールを活用することで、見やすく統一感のある動画を完成させた。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

制作にあたっては、まず役割分担を決め、写真係、文字係、動画編集係の 3 つに分かれて作業を進めた。施設や教室の雰囲気を伝えるために、写真や動画を多用し、学食では売店やメニューも撮影に含めるなど、視覚的にわかりやすい内容を心がけた。動画編集では、アニメーションやエフェクトを用いて場面転換を滑らかにし、文字のサイズを調整して強調すべき部分をわかりやすくした。

3-2. 制作にあたって工夫した点

動画には写真だけでなく動画も組み合わせることで、日常の様子をよりリアルに伝えた。

また、色や文字の統一感に注意を払い、全体のバランスや見やすさを意識した。さらに、BGMの選択にも時間をかけ、グループで話し合いながら落ち着いた曲を採用し、動画全体に統一感を持たせた。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した作品は、グループで協力しながら制作したことで大きな達成感を得られました。動画は短時間にまとまって見やすい反面、内容をさらに掘り下げればより充実したものになった可能性もあった。こうした反省点を踏まえ、次に作る機会があったら活かしたいと感じた。

4-2. 作品の評価

全体の見やすさや明るさに配慮し、浜松学院大学短期大学部の施設や活動を効果的に伝える内容となった。また、幼児造形の時間で制作した作品の写真を取り入れるなど、学生の日常や成果を伝える工夫も盛り込みました。全体的にまとまりがあり、視覚的にも魅力的な動画になったと感じた。

5. まとめ

卒業制作を通じて、2年間の学びを振り返る良い機会となった。役割分担や意見交換を重ねながら、協力して1つの作品を完成させた経験は大きな自信につながった。さらに、ゼミ活動ではタイピングスキルの向上やパソコンの活用方法を学び、ブログの更新を通じて文章力も向上した。また、ゼミで得た協調性や分担作業の重要性は、保育士としての仕事に役立つと確信しています。山本ゼミでの学びと経験を今後のキャリアに活かしていきたいと感じた。

動画編集

2023E028 小原侑奈

1. はじめに

パソコンを使う機会が少なく、苦手意識を持っていた。しかし、近年の保育現場ではパソコンの利用が増加しており、その重要性を感じた。学生のうちに必要な技術や知識を身につけることで、この苦手意識を克服し、パソコンを使うことへの抵抗をなくしたいとの思いから山本ゼミに参加した。ゼミ活動では、ブログの更新、子どもフェスティバルの準備、卒業制作の動画作りなどに取り組んだ。ブログではアカウントの作成からホームページのデザイン、投稿内容のカスタマイズまでを経験。子どもフェスティバルでは装飾やゲームコーナーの準備、プレゼント作りを行い、卒業制作では大学紹介動画を完成させた。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

卒業制作では、浜松学院大学短期大学部の紹介動画を制作した。動画は約3分で、施設、行事、ゼミ、時間割をテーマとし、大学の雰囲気を視覚的に伝えることを目指した。施設や行事の写真と動画を組み合わせ、視聴者が大学生活を具体的にイメージできるよう工夫した。特にゼミ紹介では、各ゼミの活動内容も加え、具体的なイメージが湧くようにした。また、写真だけでなく動画も取り入れることで、動きや雰囲気を伝える内容に仕上げた。

2-2. 利用したツール

動画制作には、スマートフォンの「カメラ」「Capcut」「Instagram」「Pinterest」などを活用した。「Capcut」ではBGM、アニメーション、テキスト挿入、カット編集などを行い、初心者でも使いやすい機能をフル活用した。「Instagram」は写真のレイアウト確認、「Pinterest」は背景画像の選定に使用した。これら無料ツールの利用により、効率的に制作を進めることができた。

3. 作品の制作過程

3-1. 制作方法

初めに動画の内容を決定し、施設、ゼミ、時間割、行事を軸に構成を練った。視聴者が大学生活をイメージできるよう、行事風景や施設の利用状況を中心に撮影した。役割分担を明確にし、撮影、編集、テキスト配置を分担して効率を高めた。撮影時は、研究室や行事風景など、動きのある動画を意識的に取り入れ、大学の活気を伝えることを重視した。動画編集では、場面転換にアニメーションを加えたり、穏やかなBGMを選んだりすることで、視聴

者がリラックスしながら大学の情報を受け取れるよう工夫した。

3-2. 工夫した点

制作においては、視覚的な伝わりやすさに重点を置いた。写真や動画を多く使用し、視聴者が大学の雰囲気をより具体的に感じられるようにした。特に時間割のパートでは、掲示板の写真だけでなくアニメーションを加え、大きな文字を使用して見やすさを向上させた。また、全体の統一感を意識し、色の選定や背景デザインを工夫した。背景画像は「Pinterest」から同系統のものを選び、テキストの色も白や黒に統一。これにより、動画全体に落ち着きと一貫性を持たせた。

4. 作品の完成と評価

完成した作品は、大学の施設や行事を効果的に伝える内容となった。統一感のあるデザインと穏やかな BGM が視聴者の印象を良くし、大学生活をイメージさせる役割を果たした。一方で、学食メニューや授業内容の詳細などを加えれば、さらに具体性が増し、視聴者により深い理解を与えられたと考えられる。制作過程では役割分担がスムーズに行われ、各メンバーが意見を出し合いながら進めることで、効率的かつ満足度の高い作品に仕上げることもできた。

5. まとめ

ゼミ活動を通じて、パソコンスキルの向上や文章力の強化を図ることができた。ブログ更新ではニュースに触れる機会が増え、時事への関心を高めるとともに、意見を発信する力も養った。子どもフェスティバルやスポーツデイでは、協力して準備や活動を行い、仲間との絆を深めるとともに、チームで目標を達成する喜びを得た。卒業制作では、グループで意見を出し合い、役割分担を活かして最後まで取り組むことができた。これにより、協力やコミュニケーションの大切さを改めて実感した。今回の経験を通じ、パソコンに対する苦手意識を克服しただけでなく、他者との連携や意見交換の重要性を学ぶことができた。この経験は、将来の職場でチームワークを発揮する基盤となると確信している。

学校紹介動画の制作

2023E032 金子陽花

1. はじめに

現代社会において、パソコンやインターネットの活用スキルは必須である。これに対応するため、私は山本ゼミでパソコンの基本操作やデジタルスキルを学ぶことを選んだ。このゼミでは、タイピングや Word、PowerPoint などの基本操作のほか、ブログ投稿や学校紹介動画の制作を通じて実践的なスキルを習得した。活動を通じて、技術だけでなく、グループで協力する大切さやプレゼンテーション能力も磨くことができた。これらの経験は、将来の就職や日常生活にも役立つと感じている。

本レポートでは、ゼミ活動の一環で制作した学校紹介動画の概要とその過程を詳しく述べるとともに、そこで得られた学びについて記載する。

2. 制作した作品の概要

学校紹介動画は、新入生や進学を検討している人たちを対象に、大学の魅力を伝えることを目的とした。具体的には、教室や施設の紹介、ゼミナール活動や時間割の紹介を盛り込んだ。これにより、視聴者が大学生活をより具体的にイメージできる内容を目指した。

制作には、スマートフォン用の動画編集アプリ「CapCut」を使用した。このアプリは直感的に操作できるため、初心者でも動画のカットや接続、テロップの挿入、BGM の追加が簡単に行える。また、画像編集には「ibisPaint」を用い、時間割や施設紹介に使用するビジュアル素材を加工した。これらのツールを駆使して、視覚的に分かりやすく、かつ魅力的な動画を作成した。

3. 制作の過程

3-1. 準備と撮影

動画制作の最初のステップとして、グループでテーマを話し合い、どの施設を紹介するか、どのような順序で構成するかを決定した。校内施設の紹介だけでなく、ゼミナール活動や時間割を取り上げることで、大学全体の雰囲気が伝わるよう工夫した。撮影は、施設全体が伝わるよう構図に注意し、広い場所では動画、小さい空間では写真を活用するなど効率的に行った。

3-2. 編集と工夫

撮影した素材を元に編集作業を進めた。編集では、テロップやBGMを活用し、視聴者が飽きずに最後まで視聴できるよう工夫した。テロップのデザインは、文字色やフォントの統一感を持たせ、重要なポイントが一目でわかるようにした。また、トランジション効果を適切に配置することで、動画の流れを自然にした。

時間割の説明では、曜日ごとのスライドショー形式を採用し、視覚的に理解しやすい内容にした。ゼミ活動の紹介では、具体的なエピソードや画像を交え、視聴者が親しみを持てるよう配慮した。

3-3. 挑戦と学び

動画制作において、特に難しかったのは素材の選別と編集の調整である。限られた時間内で必要な情報を詰め込みながらも、視聴者に分かりやすく伝えるバランスを取るのに苦労した。また、グループでの意見調整も重要な課題であったが、全員で意見を出し合い、それをまとめる過程を通じてコミュニケーション能力が向上した。

4. 完成作品の評価

完成した動画は、シンプルで視聴者にとってわかりやすい内容に仕上がった。ゼミナールの活動や学校生活の具体的な様子を盛り込むことで、入学希望者に大学の魅力を効果的に伝えることができたと感じている。特に、グループ全員で協力し、全員が納得する形で制作を進められたことは大きな成果である。

5. まとめ

動画制作を通じて、単なる技術の習得にとどまらず、視聴者の視点で考える重要性や、効率的なチームワークの在り方を学んだ。また、このゼミでは他にもブログ投稿やAIを活用した絵本制作など、多岐にわたる活動を経験した。これらの経験は、タイピングスキルや文章力の向上に役立ち、デジタルツールを活用する能力を大いに高めるものとなった。

今後もこの経験を活かし、さらにスキルを磨いていきたいと考えている。将来の就職活動や社会での活躍に向けて、今回得られた学びを自分自身の成長につなげていきたい。

学校紹介の動画制作について

2023E044 小出優来

1. はじめに

山本ゼミに入った理由は、パソコンに対する苦手意識を克服し、スキルを向上させたいと考えたためである。保育の仕事ではタイピングやプログラミングなどのスキルが重要であり、学生のうちにこれらに慣れておきたいと考えた。ゼミではブログ更新やホームページの作成、こどもフェスティバルの準備・開催、卒業制作の動画作成など、実践的な活動を通じてパソコンに触れる機会を増やし、少しずつ苦手意識を克服することができた。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

卒業制作として浜松学院大学短期大学部（浜短）の紹介動画を制作した。この動画は在学生の視点から浜短の魅力や楽しさを伝える内容であり、授業内容や行事映像を取り入れて、学生生活のリアルな雰囲気表現した。特にフレッシュマンキャンプやスポーツデーの映像を用いて、視覚的な楽しさと共感を得られるよう工夫した。浜短の楽しさや雰囲気を初めて知る人にも分かりやすく伝えることを目標とした。

2-2. 利用したツール

動画編集には「CapCut」を使用した。このアプリは初心者でも操作しやすく、多彩なテンプレートや編集機能を備えているため、完成度の高い作品を制作することができた。カットやトリミング、エフェクト追加といった基本的な機能を活用し、想定通りの動画を作り上げることができた。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

まずグループで話し合い、動画のテーマと目標を決定した。4人のグループを2人ずつに分け、授業紹介と行事紹介のパートをそれぞれ制作した。完成した2つの動画をつなぎ合わせた後、グループ全員で確認し修正を行った。視聴者が飽きないよう、音楽やアニメーションを加える工夫を施し、全体の完成度を高めた。

3-2. 制作にあたって工夫した点

動画では文字情報に加え、実際の映像を活用して視覚的にも楽しめる内容にした。特にフレッシュマンキャンプやスポーツデーといった行事の映像を取り入れることで、浜短の雰囲気や楽しさをよりリアルに伝えた。編集ではアニメーションを効果的に使い、動画の移り変わりを自然にし、視聴者の興味を引き続けるよう配慮した。また、音楽を加えることで楽しい雰囲気を演出した。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は、在学生の視点から浜短の魅力を伝える内容となり、授業内容は文字で説明し、行事の様子は映像で見せることで、情報量と視覚的楽しさのバランスが取れた。また、フレッシュマンキャンプやスポーツデーの映像を使用したことは、視覚的な説得力を高める一因となった。

4-2. 作品の評価

役割分担による効率的な制作が評価できる一方で、校内の撮影や在学生へのインタビューを取り入れることで、さらに説得力のある内容にできたと考えられる。映像を使用することでその場の雰囲気伝えやすくなった点は良い成果であるが、改善の余地も見られる。例えば、授業風景や教室内の撮影を加えれば、視覚的な情報量が増し、浜短のイメージがより明確に伝わったであろう。全体的に、視聴者に伝えたいことが伝わる良い作品が完成したといえる。

5. まとめ

今回の動画制作を通じて、パソコンに対する苦手意識を克服し、スキルの向上を実感することができた。また、自分たちで浜短の魅力を伝える動画を制作する中で、ゼミ活動や行事の思い出を改めて振り返る良い機会となった。この経験を通じて、グループでの協力や役割分担の重要性を学び、自己成長につながったと感じる。特に動画の完成に至るまで、素材の収集や編集を自ら行ったことは、非常に良い経験となった。今後、保育の仕事においてもこれらのスキルを活用し、園だよりやクラスだよりの作成に活かしたい。さらに、効率的かつ正確なタイピングを目指し、継続的にスキルを磨いていきたいと考える。

浜松学院大学短期大学部

紹介ビデオの制作について

2023E056 菅沼 千瑠

1. 山本ゼミに入った理由

パソコンの操作経験が少なく、タイピングや Word、Excel などのスキルを身につけたいと感じた。小学校から高校まで、授業でパソコンに触れる機会はありませんでしたが、しっかりと操作する経験がなかった。当初は保育士を目指す上でパソコンは必要ないと思っていましたが、実習や授業を通して、保育士の業務にはパソコンが必須であることを知った。お便り作成や成長記録、保育料計算など、業務効率化に役立つツールを使える必要があるため、山本ゼミでパソコンスキルを学ぶことを決意した。また、子どもの頃に母のタイピング姿を見て憧れを抱いたことも、ゼミ参加への動機となった。

ゼミ活動では、ブログ作成や子どもフェスティバル、スポーツデイなど、仲間と協力して多くのイベントに取り組んだ。特にブログ作成は印象深く、ゼロからページを作り、ニュースや出来事を定期的に投稿した。これらの活動を通じて新しいスキルを楽しく学ぶことができた。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

浜松学院短期大学の施設紹介動画を制作した。ホールや食堂、図書室、ピアノ個室など、各部屋の写真や動画を撮影し、施設の魅力を紹介した。動画は受験生や保護者向けに制作され、学校への理解を深めるとともに、入学希望者の増加を目指した。

2-2. 利用したツール

主に使用したツールは以下の通りです：

CapCut は動画の分割、BGM やテキストの追加、エフェクト編集など。

VLL0 はフレーム追加、効果音やアニメーションの挿入、ナレーション録音など。

アイビスペイントはイラスト制作や画像編集に使用。

これらのツールを活用し、視覚的に魅力的な動画を作り上げた。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

1. グループでの話し合い

施設紹介の範囲や撮影スタイルを決定。

2. 必要な写真や動画の撮影

大学の特徴を整理し、利用者目線で伝えたいポイントを明確化。撮影はスマホを使用。

3. 動画編集

明るさや色彩を調整し、視聴者に見やすい動画に仕上げた。

3-2. 制作にあたって工夫した点

1. 撮影形式の変更

当初は写真を使う予定でしたが、動画の方がわかりやすいと判断し再撮影。

2. テキストデザインと効果音

背景にチェック柄を入れ、テキストが見やすくなるよう工夫。すべてのテキスト表示にクリック音を追加。

3. サムネイル作成

動画の一部を切り取ってかわいい装飾を加え、視聴者の関心を引くデザインを採用。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は約1分30秒で、浜松学院短期大学部のYouTubeチャンネルに公開された。

4-2. 作品の評価

クリスマス時期の撮影で雪のフィルターを使用し、温かみのある雰囲気 연출した。視聴者からも見やすく心に残る動画だと評価した。普段見慣れた学校ですが、撮影の過程で新たな発見もあり、探索するような楽しさを感じた。

5. まとめ

今回の動画制作では、学校の魅力を効果的に伝えるために、撮影・編集・デザインの全工程をグループで工夫した。特に視聴者目線に立った明るさやデザインの調整が重要であると学べた。また、ゼミ活動全体を通じてパソコン操作や共同作業のスキルを身につけ、多くの思い出を作ることができた。

今後は、ゼミで学んだ知識やツールを保育の現場で活用し、さらなる成長を目指す。

大学紹介の動画作成について

2023E057 菅沼優唯

はじめに

私は保育職を目指しているため、将来の仕事においてパソコンを多く使うことになると考えています。これまで、学校の授業でタイピングをしたことはありますが、普段の生活でパソコンを使う機会は少なく、特にタイピングに苦手意識がありました。そのため、ゼミに参加してパソコンスキルを向上させたいと思い、積極的にパソコンに触れるようになりました。

ゼミでは、グループで週に2回、ブログを更新する活動を行いました。最初はタイピングが遅く、誤字も多かったのですが、続けていくうちに少しずつタイピングに慣れ、スムーズに打つことができるようになりました。この経験を通じて、パソコンを使うことに対する苦手意識を克服し、パソコンスキルを向上させることができました。

作品制作の概要

ゼミでの課題として、「浜松学院大学短期大学部幼児教育科」の魅力を紹介する動画を制作しました。テーマは「学校行事」で、学校をまだ知らない人に行事の魅力を伝え、学校をより深く知ってもらうことを目的としました。特に、学校行事の様子を紹介することで、学校の雰囲気や魅力を視覚的に伝えることができました。

使用したツールは「Cap Cut」というスマートフォンアプリで、簡単に動画のカットやテキストの追加、BGMの挿入ができるため、動画編集初心者でも扱いやすかったです。

作品制作過程

動画制作は以下の3つのステップで進めました。

グループでの話し合い

まず、グループごとに集まり、浜松学院大学短期大学部の魅力を伝えるテーマとして「学校行事」に決めました。さらに、どの行事を紹介するかを話し合い、最終的に「スポーツデー」「フレッシュマンキャンプ」「こどもフェスティバル」の3つの行事を選びました。

学校行事の動画素材集め

各グループメンバーは担当する行事について、実際に行われた行事の動画や写真を集めました。自分たちが参加した行事の映像を使うことで、視聴者にその楽しさや雰囲気をリアル

に伝えることができました。

動画編集

集めた素材をもとに、Cap Cut で動画編集を行いました。行事ごとにテキストを挿入したり、BGM を追加したりして、視聴者にわかりやすく楽しんでもらえるよう工夫しました。また、長い映像はスピード調整して、飽きずに見てもらえるようにしました。

工夫した点

テキストの工夫

動画のテキストを視覚的にわかりやすくするため、色やアニメーションを使い、長文にならないように短く区切りました。また、テキストのサイズや配置を工夫し、どのデバイスでも見やすくしました。

実際の行事の映像を使用

実際に自分たちが参加した行事の映像を使用し、視聴者にその楽しさや雰囲気を伝えました。映像を短縮し、倍速で編集することで視聴者が飽きないよう工夫しました。

役割分担の工夫

グループでの作業では、役割分担が重要でした。各メンバーが得意分野を活かし、私が編集作業を担当し、他のメンバーが素材集めやテキスト作成を行いました。こうした分担により、作業が効率よく進みました。

作品の完成と評価

完成した動画は、学校行事の魅力をうまく伝えることができました。特に、実際に自分たちが参加した行事の映像を使用することで、視聴者に親近感を与え、学校の雰囲気をリアルに伝えることができました。また、グループで協力して作成したため、視点が広がり、より多角的に行事の良さを伝えることができました。ただし、動画編集の際、使用したアプリが異なったため、途中で映像の雰囲気が変わってしまいました。しかし、これはテーマの切り替え部分として受け入れ、全体としてまとまりのある動画に仕上がったと感じています。

まとめ

ゼミ活動を通じて、動画編集やグループワークの重要性を学びました。Cap Cut を使った動画編集や、グループで役割分担をしながら作業を進める力が向上しました。また、パソコンスキルも大きく向上し、タイピングの速さや文章作成の力が身につきました。これらのスキルは将来の仕事に活かせるものです。

今後もパソコンスキルをさらに高め、職場で効率よく作業を進められるよう努めていきます。また、グループでの協力作業を大切に、チームワークを活かして仕事に取り組んでいきたいと考えています。

「浜松学院大学短期大学部紹介ビデオ」の制作について

2023E065 鈴木莉央

1. はじめに

私が山本ゼミナールに参加した理由は、パソコンに対する苦手意識を克服し、パソコンスキルを身に付けたかったからである。教育実習や保育実習で見た保育者たちがパソコンを活用する姿を何度も目にしたため、将来保育士として働くためにはパソコンのスキルが重要だと感じた。パソコンのスキルを持つことで作業効率が上がり、時間の節約にも繋がると考えたため、ゼミ活動を通じてパソコンに慣れることを目指した。ゼミでは、ブログ制作や卒業制作として「浜松学院大学短期大学部の学校紹介」の動画作成を行い、パソコンを使った作業を積極的に経験した。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

私たちのグループは「浜松学院大学短期大学部の大学紹介」動画を制作した。動画では、大学のさまざまな施設や教室、図書館、購買、学食などを紹介し、それぞれの場所の用途や雰囲気が分かりやすく伝わるようにした。この動画は特に、将来進学を考えている高校生に向けて、学生目線で大学の特徴を紹介することを目的として作成した。制作メンバーは、菅沼千瑠、鈴木莉央、田中夏綸、一ノ瀬奈旺の四人である。

2-2. 利用したツール

動画制作に使用した主なツールは、iPhone のカメラで撮影した写真や動画を、動画編集アプリ「CapCut」、「VLL0 (プロ)」、「アイビスペイント」、および「BeautyPlus」を使って編集した。「CapCut」と「VLL0」は基本的な編集機能を提供し、アイビスペイントはサムネイル作成に使用した。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

3-1-1. 動画の内容決め、役割決め

まず、グループでどのような動画を作成するかを話し合い、先輩たちの卒業制作やYouTubeの動画を参考にし、最終的に「浜松学院大学短期大学部の大学紹介」動画を作成することに決定した。その後、撮影場所の選定と役割分担を行った。

3-1-2. 写真・動画撮影

撮影はゼミの時間に行い、iPhone のカメラを使って決めた場所を撮影した。初めは写真を使って動画を作成する予定だったが、話し合いの結果、動画の方がより大学の雰囲気を伝えやすいと判断し、再度校舎内の動画を撮影した。これにより、学校の魅力がよりリアルに伝わる動画になった。

3-1-3. 動画の編集

撮影した動画を「CapCut」や「VLL0」を使って編集し、全体の雰囲気に統一感を持たせる

ために色味を調整し、BGM やエフェクトを加えた。また、教室の名前や用途を説明するテキストを挿入し、サムネイルも作成した。

3-2. 制作にあたって工夫した点

3-2-1. 写真ではなく動画を撮影

最初は写真を撮影し、それをつなげて動画にしようと考えていたが、最終的には動画を撮影し、それを組み合わせる方法を選択した。これにより、大学内の雰囲気がより伝わりやすくなった。

3-2-2. 色味の調節・音楽の挿入

撮影した動画の色味を調整し、統一感のある明るい雰囲気に仕上げた。音楽もそれに合わせて落ち着いた雰囲気のものを選び、挿入した。

3-2-3. サムネイルの作成

動画のサムネイルを作成することで、視聴者がすぐに内容を理解できるようにした。サムネイルには親しみやすいアニメーションを使い、視聴者が興味を持ちやすいよう工夫した。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した作品は、グループの個性を活かし、優しく落ち着いた雰囲気を持つ学校紹介動画に仕上がった。色味やエフェクト、効果音を駆使して、視覚的にも音楽的にも調和が取れた動画となった。

4-2. 作品の評価

動画は分かりやすく、浜松学院大学短期大学部の魅力を十分に伝えられたと感じている。特に動画を組み合わせたことで、視聴者に親しみやすく、学校の雰囲気がしっかり伝わる内容となった。

5. まとめ

卒業制作を通じて、グループメンバーと協力し、意見交換を行いながら自分たちらしい動画を作ることができた。この動画を通じて、浜松学院大学短期大学部の魅力が視聴者に伝わることを願っている。また、制作を通じて、パソコンに対する苦手意識が薄れ、タイピングスキルや文章力も向上した。ゼミ活動を通じて、積極的にコミュニケーションをとることができ、仲間との絆を深めることができた。この経験を今後の就職活動にも活かしていきたいと考えている。

「浜松学院大学短期大学部紹介ビデオ」の制作について

2023E073 田中夏綸

1. はじめに

私が山本ゼミナールに入った理由は、保育士として必要なパソコンスキルを向上させたいと考えたからです。保育の現場では、園だよりや資料作成などでパソコンを使う機会が多くなるため、それらを効率的に行う技術を身につけることが必要だと思いました。ゼミナール活動では、主にブログ作成と卒業制作の学校紹介動画制作に取り組みました。ブログ作成では週2回、担当者が記事を書く形式で進められ、私はその際、読む人に内容が伝わりやすいように写真を活用し、情景がより鮮明にイメージできるように作成することを心がけました。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

私たちのグループでは、「学校紹介動画」を制作しました。この動画では浜松学院大学短期大学部の各教室を紹介し、新入生や外部の人々に学校の魅力を伝えることを目的としました。内容を分かりやすくするため、教室で行われる授業や使用用途について説明しました。グループのメンバーは田中夏綸、菅沼千揺、鈴木莉央、一ノ瀬奈旺で、それぞれの得意分野を活かして役割を分担し、作業を効率的に進めました。

2-2. 利用したツール

動画制作には、主に「CapCut」「VLLO」「ibisPaint X」「BeautyPlus」を使用しました。「CapCut」では動画のつなぎ合わせやBGMの挿入を行い、「VLLO」を使用してテキストやアニメーション、フレームを追加しました。「ibisPaint X」はサムネイル画像の作成に、「BeautyPlus」は動画の色味調整に活用しました。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

3-1-1. 動画撮影

各教室をiPhoneのカメラで撮影しました。全体が見やすいように、構図や明るさに注意を払い、学生がいない時間帯を選んで撮影を行いました。教室の雰囲気が伝わるよう、ゆっくりと撮影することを心がけました。

3-1-2. 動画編集①

撮影後、「BeautyPlus」で動画の明るさや色味を調整し、「CapCut」を使用して動画をつなぎ合わせました。複数日に分けて撮影したため、時間帯や天候による明るさの違いを統一するよう特に注意しました。

3-1-3. 動画編集②

「VLLO」を使用してテキストや効果音、アニメーションを追加しました。テキストには背景デザインを適用し、視認性を高めました。また、季節感を出すために雪のアニメーションや、視覚的に可愛いハートや蝶のアニメーションを加えました。最後にサムネイル画像を作成し、動画の顔となる部分に特に力を入れました。

3-2. 制作にあたって工夫した点

3-2-1. 色味の調整

夕方に撮影したため自然光が少なく、教室が暗く見えがちだったため、編集で明るさやコントラストを調整し、教室が明るく見えるよう工夫しました。また、撮影日ごとに動画の明るさがばらつかないように、全体の統一感を意識して編集しました。

3-2-2. テキストデザインと効果音

テキストには背景を加え、目を引きやすくしました。さらに、文字が表示されるタイミングにクリック音を挿入し、視覚と聴覚の両面から情報を伝える工夫を行いました。

3-2-3. サムネイル作成

サムネイル画像には動画から選んだ4枚のシーンをコラージュし、視覚的に魅力的なデザインを心がけました。装飾にはハートや蝶を用い、動画を「見たい」と思ってもらえるような仕上がりを目指しました。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

撮影から編集までの作業時間は限られていましたが、グループ全員で意見を出し合い、完成度を高めることができました。字幕の色味やデザインにも配慮し、視認性の高い動画を制作しました。

4-2. 作品の評価

かわいらしい雰囲気を目指して制作し、教室説明の内容や動画の全体的な編集には試行錯誤が必要でしたが、最終的には満足のいく仕上がりとなり、大きな達成感を得ました。

5. まとめ

卒業制作を通じて、動画編集スキルやチームでの協力の重要性を学びました。また、ゼミ活動を通して得たパソコンスキルは、保育の現場で役立てられると確信しています。この活動を通じてメンバーとの絆が深まり、互いに協力し合いながら作り上げた経験はとても有意義なものになりました。この経験を今後の仕事や生活に活かしていきたいと考えています。

浜松学院大学短期大学部紹介動画の制作について

2023E078 手塚梨々子

1. はじめに

これまでパソコンに触れる機会が少なく、タイピングに不慣れであったことからパソコンに対して苦手意識を抱いていた。しかし、保育現場では園だよりや指導計画などの資料作成にパソコンスキルが求められるため、技術を習得する必要性を感じ、山本ゼミに参加することを決意した。ゼミ活動では、ブログ更新や生成 AI を活用した物語制作など、パソコンを用いたさまざまな作業に取り組んだ。また、子どもフェスティバルにおいてはテーマに沿った企画の立案や運営も行った。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

浜松学院大学短期大学部の魅力を多くの人に知ってもらうため、紹介動画を制作することにした。動画は高校生を主なターゲットとし、進学先として大学を検討する際に必要とされる情報を盛り込んだ。大学の立地や施設、行事、授業の充実度といった要素を重点的に取り上げ、明るく楽しい雰囲気を演出するよう工夫した。

2-2. 利用したツール

編集には「CapCut」というアプリを使用し、動画のカットやテキスト、BGM の挿入など細部まで丁寧に調整を行った。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

3-1-1. 動画の内容決め・役割決め

グループのメンバーで案を出し合い、紹介動画の構成を決定した。「大学の概要」「授業や壁面構成の様子」「施設や設備」「行事の紹介」という大きなテーマに分け、それぞれの役割を決めて作業を分担した。

3-1-2. 写真や動画の撮影・動画制作

撮影ではカメラの角度や位置に注意し、見やすい映像になるように心がけた。

3-1-3. 仕上げ

完成した動画をつなぎ合わせ、視聴者にテーマが伝わりやすいよう冒頭で概要を示し、最後には挨拶を加えた。

3-2. 制作にあたって工夫した点

3-2-1. 写真や動画の活用

動画制作では、視覚的な刺激を与えるために写真や動画を多く活用した。文章だけでは伝わりにくい内容も、映像を加えることでイメージを補完し、視聴者の関心を引くことを目指した。

3-2-2. BGM やテキストの挿入・アニメーションの追加

BGM やアニメーションを挿入する際には、フリー素材の音源を比較し、動画の雰囲気に合ったものを選んだ。フォントの色や配置にも配慮し、情報が視覚的に明確に伝わるよう工夫を重ねた。

3-2-3. 雰囲気を統一

動画全体をポップで統一感のある雰囲気に仕上げることで、楽しく視聴できる内容に仕上げた。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は、学生の視点から大学の魅力を多角的に伝える内容となった。具体的には、授業風景やピアノのレッスン室、学食の紹介など、学生生活の一端を垣間見られる映像が盛り込まれている。

4-2. 作品の評価

試行錯誤を繰り返した結果、目標としていた「明るく楽しい作品」を実現することができた。一方で、大学の強みである「教職員と学生の距離の近さ」をもっと強調できたのではないかという課題も残った。

まとめ

動画制作を通じて、私自身大学の魅力を再認識する機会となった。スマートフォンを活用した編集作業の手軽さや、無料で使用できるアプリの便利さも実感した。また、グループで役割を分担し協力し合うことで、責任感やコミュニケーション能力が向上した。ゼミ活動全般では、パソコンを頻繁に使用することでタイピングスキルが向上し、情報収集の習慣も身についた。これらの経験を今後の保育現場で活かし、パソコンを有効に活用していきたいと考えている。

学校紹介の動画制作について

2023E079 富田彩音

1. はじめに

私が山本ゼミナールに入った理由は、保育現場でパソコンを使う機会が多いと感じたためである。パソコンスキルを向上させたいという思いから参加を決意し、苦手意識を克服しながら基本的なスキルを身につけることを目標とした。ゼミナールでは、ブログの作成や更新、イベント準備、グループでの動画制作を主な活動として行った。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

私たちは、浜松学院大学短期大学部を紹介する動画を制作した。授業や行事を通じて大学の魅力を伝え、進学を検討する人々に親しみを感じてもらえる内容を目指した。動画では、PowerPoint や CapCut を活用し、大学の雰囲気が伝わるよう工夫した。

2-2. 利用したツール

撮影には iPhone を、編集には PowerPoint と CapCut を使用した。PowerPoint は授業内容を紹介する場面で、CapCut は行事の動画編集に利用し、それぞれの特性を活かして仕上げた。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

動画のコンセプトや役割分担をグループで話し合い、「ハマタンの日常」を親しみやすく伝えることをテーマとした。授業や行事の写真・動画を撮影し、素材を集めた。編集作業では、グループ全員が協力しながら、BGM やフォントの選定、テンポの調整を行い、構成を工夫した。

3-2. 制作にあたって工夫した点

役割分担を徹底し、それぞれの得意分野を活かしながら効率的に作業を進めた。また、授業で制作した作品や行事の映像を取り入れ、保育らしさや大学の雰囲気が伝わるよう工夫した。編集では、見やすく親しみやすい動画になるよう構成やデザインに注力した。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は、「ハマタンの日常」を親しみやすく伝える内容となり、大学生活の楽しさや保育の魅力を表現した。色使いやレイアウトを工夫したことで、視覚的にも魅力的な仕上がりとなった。

4-2. 作品の評価

動画は、授業内容や行事の楽しさを分かりやすく伝えるものであり、大学の魅力を効果的に発信できた。動画を通じて、保育や幼児教育への関心を持つ人が増えることを期待している。

5. まとめ

グループ制作を通じて、役割分担や協力の重要性を学び、素材や編集方法を工夫して動画を完成させた。この活動を通じて、大学生活や学びの魅力を改めて実感するとともに、パソコンスキルや「人に伝える力」を身につけることができた。これらの経験は将来の保育現場でも役立つものであり、今後もパソコンスキルの向上を目指し、学びを深めていく決意を新たにしている。

動画制作について

2023 E 080 内藤さやか

はじめに

山本ゼミナールに参加した理由は、保育の現場で ICT 技術の活用が増えていることに対応するためだった。保育園では「園だより」や「号外」などの作成や、保護者との連絡手段としてパソコンを使う機会が増えている。そのため、効率的に仕事を進めるためにパソコンの知識や技術を向上させたいと考えた。また、商業高校出身でパソコンに触れる機会が多かったことから、ゼミを通じてさらにスキルを高めたいと思った。このゼミではブログのホームページ作成や更新、卒業制作として大学紹介の動画制作を行い、グループで協力しながらプロジェクトを進める経験を得た。

制作した作品の概要

ゼミ活動の中で制作した主な作品は、浜松学院大学短期大学部（ハマタン）の魅力を紹介する動画だ。この動画は、大学の日常や行事の様子を映し出し、大学に馴染みのない人々にもその魅力を伝えることを目的としている。動画制作を通じて、映像編集の基本や素材収集、フリー素材の活用方法などを学ぶことができた。具体的には、iPhone のカメラや写真機能、動画編集アプリ「CapCut」を使用した。CapCut は無料で使える初心者向けのアプリでありながら、多くの編集機能を備えている。このツールを用いて、動画や写真のカット、組み合わせ、BGM やテキストの挿入などを行い、視覚的に魅力的な動画を制作した。

制作のプロセスと工夫

動画制作は、まずグループ内でテーマや構成を話し合うところから始まった。題材として、月曜日の授業風景やハマタンの行事を取り上げることに決まり、役割分担を行った。撮影では、授業の教科書や作品、行事の様子などを写真や動画で記録した。その後、各自が担当する部分を編集し、全体の動画にまとめ上げた。特に行事の映像では、学生が楽しみながら協力する様子を伝えることを重視した。また、役割分担の際にはメンバーそれぞれの得意分野を活かし、効率的に進めることを意識した。私は月曜日の授業の編集を担当し、他のメンバーは行事の撮影や構成を進めた。

動画編集では、撮影素材を整理しながらわかりやすくカットし、テキストやBGMを挿入して完成度を高めた。授業風景のシーンでは、どの教科をどの教室で行うのかを具体的に説明し、視聴者がイメージしやすいように工夫した。また、行事の映像では、楽しむ学生たちの様子を生き生きと伝えることに成功した。

完成した作品と評価

完成した動画は、浜松学院大学短期大学部の日常や行事の楽しさを視覚的に伝える内容となった。授業の魅力や「フレッシュマン・キャンプ」「スポーツデイ」といった行事の様子が視聴者に伝わるよう、構成やデザインに工夫を凝らした。動画全体に統一感を持たせることで、より親しみやすい仕上がりとなった。この作品を通じて、大学の魅力を幅広い人々に伝えることができ、保育や幼児教育に興味を持つ人が増えることを期待している。

ゼミ活動を通じて得たもの

ゼミナール活動を通じて、私はパソコンに対する苦手意識を克服し、多くのスキルを習得した。ブログ投稿では、200字以上の文章を作成する必要があり、伝えたい内容を分かりやすく整理して書く力を磨いた。また、タイピング速度が向上し、ショートカットキーの活用によって作業効率も向上した。こうした経験を通じて、文章作成や情報整理、表現力を高めることができた。このスキルは保育現場での「園だより」や資料作成などに役立つと感じている。

また、グループでのプロジェクトを通じて、他者と協力しながら目標を達成する力や、計画的に作業を進める力も養われた。グループメンバーと意見を出し合い、役割を分担して作業を進めた経験は、グループワークの重要性を実感する良い機会となった。完成した動画を通じて、保育の楽しさや魅力を視覚的に伝えることができ、多くの人に保育への興味を持ってもらえたと感じている。

ゼミ活動で得た経験は、保育や社会生活の中で大いに役立つと確信している。この活動を通じて培ったスキルや自信をもとに、これからの実務や保育現場で積極的にICTを活用し、保護者や子どもたちに分かりやすく情報を伝える力を発展させていきたいと思っている。

はまたん紹介動画制作

2023E088 名倉世莉

1. はじめに

私は以前パソコン操作が苦手で、特にタイピングに自信がなかった。しかし、保育現場では事務作業も重要で、効率的に仕事を進めるためにはパソコンスキルが必要だと感じ、苦手意識をなくしたいと思った。実習では、園からのお知らせ作成や子どもの活動写真を使った掲示物作成など、パソコンを使った業務が多いことを実感し、スキル習得の必要性を強く感じた。

山本ゼミでは、毎週ブログを作成して更新し、タイピングスキルや文章力を高めた。また、写真の貼り付けやUSBの使い方など、パソコン操作の基本的な技術も学び、作業効率化への自信を深めることができた。この経験を通じて、保育の現場での事務作業にも役立てたいと考えている。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

学内の魅力を伝える動画を制作しました。私は入学前に「ハマタン」の良さをもっと知りたかった経験から、これから入学を目指す学生に向けて、大学の魅力を伝える動画を作りたいと思った。この動画がきっかけで、入学希望者が増え、大学生活を楽しめる人が増える良いと考えている。

2-2. 利用したツール

無料動画編集アプリ「Capcut」を使用した。このアプリでは、動画のカット、分割、BGMやエフェクトの追加、テキストやスタンプの挿入など、さまざまな編集ができる。これらを駆使して、楽しい紹介動画を制作し、ハマタンの魅力を広く発信した。

3. 作品の制作過程

3-1. 作品の制作方法

3-1-1. 動画のコンセプト決め・役割分担

まず、動画のコンセプトを話し合い、グループで役割を分担した。どの部分を紹介するかを決める際、友人やゼミ生からの意見も取り入れ、日常で見落としがちな大学の良さを改めて発見した。構成を考える中で、撮影順序や使う映像の内容を細かく計画した。

3-2. 制作にあたって工夫した点

制作時には、学生生活の親近感が伝わるように、大学の日常的な場面を取り入れた。また、新入生にとって参考になる情報を盛り込みつつ、楽しい雰囲気が伝わるよう工夫した。それぞれのパートが重ならないよう役割を明確に分担し、情報が重複しないよう配慮した。

3-2-1. 動画撮影

撮影では、浜松駅から大学へのアクセスを動画で紹介し、大学の利便性をアピールした。また、授業、イベント、ピアノ練習室、食堂など、学生生活の多様な側面を撮影した。保育の授業では、製作活動の様子や作品を撮影し、保育現場で必要な技術が学べることも伝えた。

3-2-2. 動画編集

動画編集では、見やすさと自然な流れを重視しました。アニメーションやBGMを適切に配置し、文字のフォントや色合いを工夫することで、親しみやすく明るい印象の動画に仕上げた。各パートの切り替え時に違和感が出ないように、音量やタイミングも調整した。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は、大学の魅力をわかりやすく伝える親しみやすい作品となった。写真や動画、アニメーション、BGMを活用し、温かみのある雰囲気を演出した。私が入学前に知りたかった情報を盛り込み、これから入学を目指す学生に役立つ内容となったことに満足している。

4-2. 作品の評価

動画は、大学生生活の雰囲気を伝えるだけでなく、保育士を目指す学生に向けた情報も含まれている。特に写真だけでなく動画を多く使用することで、具体的なイメージを見る人に伝えられたのではないかなと思う。ただし、学生の声やインタビューを入れることができれば、さらに需要を高められたのではないかなと感じた。

5. まとめ

卒業制作を通じて、グループでの協力やコミュニケーションを深めながら、満足度の高い作品を完成させた。また、大学の魅力を再発見し、伝える楽しさを感じることができた。ゼミ活動ではブログ作成を通じてタイピングや文章力を身につけ、パソコンに対する苦手意識を克服した。

保育現場ではゼミで学んだスキルを活かし、園からのお知らせ作成や保育指導案作成などの事務作業を効率的に進めたいと考えている。また、文章力の向上にも努め、保護者や職員にわかりやすい情報を伝える力をさらに高めたい。卒業制作とゼミでの学びを通じて、自身の成長を実感することができた。

はまたん紹介動画

2023E095 俵山亜純

1. はじめに

山本ゼミに参加した理由は、パソコン操作の苦手意識を克服し、保育士として必要なスキルを習得するためである。保育士になれば、園便りなどでパソコンを活用する機会が増えるため、スムーズに操作できるようになりたいと考えた。大学生活では、自分の苦手分野に挑戦することを目標としており、パソコンを多く使用する山本ゼミを選択した。ゼミ活動では、レポート制作、イベント準備、ブログ作成を行い、自分の出来事や最近気になるニュースを写真付きで記録した。これにより思い出を振り返り、楽しい活動として取り組むことができた。

2. 作品制作の概要

2-1. 制作した作品

浜松学院大学短期大学部の魅力を伝える PR 動画を制作した。通学方法、学食の紹介、ゼミ活動など、大学の特徴を具体的に紹介し、視聴者が大学生活をイメージできるように工夫した。保育士を目指す学生に大学の魅力を伝えることを目的とし、明るく親しみやすい内容を目指した。

2-2. 利用したツール

スマートフォンのカメラと「CAPCUT」という動画編集アプリを活用した。動画のカットや分割、速度調整、BGM の挿入、字幕やアニメーションの追加などを行い、完成度の高い動画を制作した。また、YouTube から動画に合った音楽を選び、視覚的にも聴覚的にも楽しめる仕上がりを目指した。

3. 作品の制作過程

3-1. 制作方法

内容決定と役割分担：大学の施設や特徴を紹介する内容を話し合いで決め、メンバーで役割分担を行った。撮影のスケジュールを立て、テーマに沿ったコンセプトを設定した。

写真や動画の撮影：通学路、大学施設、教室、学食、行事の様子などを撮影し、視聴者が大学生活をリアルに感じられるよう工夫した。撮影が難しい箇所は大学のホームページから素材を探した。

動画編集：CAPCUT で、BGM や文字、フェード効果を使い、視聴者にとって見やすく楽しい動画に仕上げた。文字の色や配置にもこだわり、全体のバランスを調整した。

3-2. 工夫した点

動画のコンセプトを「温かく楽しい雰囲気」とし、ハマタンの魅力を伝える内容を目指した。撮影では、視聴者が通学体験を共有できるようリアルな動画を撮影した。バスから降りて学

校に到着するまでの流れを動画で見せ、視覚的に分かりやすく工夫した。

動画編集では、適切なフォント選びや音楽の選定、フェード効果を活用し、映像の切り替えをスムーズにした。多くの写真や動画を使用し、情報量が多くなるよう心がけた。

4. 作品の完成と評価

4-1. 完成した作品

完成した動画は、ハマタンの温かさや楽しさを伝える内容となった。背景や文字のフォント、アニメーション効果に配慮し、飽きずに見ることのできる動画に仕上げた。また、明るいBGMや文字の挿入タイミングを工夫し、視聴者にとって見やすく楽しい作品となった。

4-2. 作品の評価

制作過程では、グループでの話し合いを重ね、テーマに合う工夫を凝らした。通学路や大学施設を実際に撮影し、視聴者が大学生活をリアルに感じられる内容を目指した。これにより、グループのコンセプトに合致した作品が完成し、視聴者にハマタンの魅力を効果的に伝えることができた。また、グループ活動を通じて、個人では得られない達成感や団結力を得ることができた。

5. まとめ

山本ゼミでの活動を通じて、パソコン操作への苦手意識を克服し、自信を持てるようになった。PR 動画の制作を通じて達成感を得るとともに、保育士として役立つスキルを身につけた。また、ブログ作成やゼミ活動を通じて他者との交流や情報共有を楽しむことができた。グループ活動では、計画やコミュニケーション能力を培い、保育士としての仕事に役立つスキルを学ぶことができた。このゼミで得た経験を活かし、将来は子どもたちのために尽力する保育士になりたいと考えている。

動画制作について

2022E078 戸塚夢菜

1. はじめに

山本ゼミに参加した理由は、パソコン操作の苦手を克服し、保育士として必要なスキルを身につけるためである。現在の保育現場では、園だよりやクラスだよりの作成、メールの作成などでパソコン操作が求められる場面が多く、学生時代に基礎的な知識とタイピング能力を身につける必要があると感じた。ゼミでは、週2回のブログ作成や更新、子どもフェスティバルの準備、動画制作、卒業制作を通じてパソコンの操作方法や資料作成の技術を学んだ。活動を通じて、チームでの共同作業や企画の進め方にも取り組んだ。

2. 作品制作の概要

卒業制作として、浜松学院大学短期大学部（以後ハマタンと略す）の紹介動画を制作した。この動画では、ハマタンの日常や魅力を視覚的に伝えることを目的とし、大学の雰囲気幅広く知ってもらうことを目指した。スマートフォンで撮影を行い、編集は「CapCut」というアプリを使用した。動画カット、BGMの挿入、テキストの追加などの機能を駆使して、分かりやすく魅力的な映像を作り上げた。

3. 作品の制作過程

まず、動画のコンセプトを「明るく楽しい、見た人が通いたくなる紹介動画」と決めた。大学へのアクセス方法、学内の様子、行事などをテーマに内容を構成し、グループ内で役割を分担した。撮影では、指定された場所での映像や写真を撮影し、学食やピアノ練習室、壁面装飾などハマタン特有の要素を取り入れた。編集段階では、撮影した素材にBGMや文字を加え、各シーン間の移行を滑らかにするフェード効果を用いたり、視聴者に親しみやすいデザインを工夫した。

4. 作品の完成と評価

完成した動画は「明るく楽しい雰囲気」を重視し、保育を学びたい人々がハマタンに興味を持てる内容に仕上がった。具体的には、大学の行事や設備、学生の生活を多角的に紹介し、保育士養成校としての特徴を伝える内容となった。動画の評価ポイントとして、視覚的な楽しさと保育に対する興味喚起が挙げられる。

5. まとめ

卒業制作を通じて、役割分担や意見交換を行いながら動画制作を進めた経験は、協力する大切さや視聴者目線の重要性を学ぶ機会となった。動画制作では、色やレイアウト、BGMの選択など細部への配慮が作品全体の完成度に大きな影響を与えることを実感した。これらの経験は、将来保育現場で園だよりやクラスだよりを作成する際にも応用できる。ゼミ活動を通じて苦手だったパソコン操作への抵抗感が薄れ、自信とスキルが向上したことにより、保育士としての基盤をさらに強固なものとすることができた。